

原発立地地元の住民の思いは？

1月22日、日曜日の午後、大阪市北区中之島にある関西電力本社ビル前にて「1.22 高浜原発うごかすな！関電包囲全国集会」が開催された。福井からは、「原子力発電に反対する福井県民会議」がチャーターしたバスやJRを利用して35名、全国から約1000名が参加して高浜原発の再稼働反対の声を関西電力へ届けた。福井県連絡会からは、林と奥出春行代表、日本共産党の金元幸枝さん、猿橋巧さん、山本貴美子さん、新日本婦人の会の前田信子さん、嶺南センターの山本雅彦さん、民青同盟の近藤要さん、福井県労連の五十嵐正夫さん他が参加した。

40年を超える老朽原発の運転延長問題では、高浜原発に隣接する音海地区から「再稼働反対」の意見書が出された。原発運転延長反対の立て看板も出された。福井県議会では、佐藤正雄県議が運転延長への工事入りを認めるなど要求したが、西川知事は工事と運転再開判断は別などと言って60年まで稼働できる運転延長の工事を容認してしまった。しかし今回、原発推進だった地元から反対の声が生まれれてきたことは、大きな変化にまちがいない。

私は立地自治体の住民が原発に反対だが、生活のために反対できない人が多くいることを知っている。2012年大飯原発の再稼働が直前に迫ってきていた4月、「大飯原発再稼働について慎重な判断を求める署名」を持ちおおい町民訪問対話行動を行った。訪問対話で集める署名は、「再稼働反対」ではなく、「安全性が確認されていない現状での再稼働は、あまりに拙速でないか？再稼働に対し慎重に判断を求める署名」だった。しかしこの署名が予想外に集まらない結果となった。旧大飯町の集落では、若い夫婦の世帯でご主人（20代）と話そうとしたが、一言「俺、原発の職員なので・・・」それ以上は何もいわない。質問しても答えない。役場のある本郷地区の男性（70代）は、「昔と今では、状況が違う。原発が建設される前は、わしらも頑張って反対運動に力注いだ。しかし建設後は違う。原発やめて仕事なくなり明日からどうやってま（飯）食えて言うんや。わしの家も孫が原発で働いているので署名はできんわ」と断られた。

旧名田庄村で自営業の女性（60代）に話を聞く。「昔は小浜市で店を出していた。その時は、中嶋さん（哲演住職）の会（原発設置反対小浜市民の会）の学習会に出たこともあった。原発はだめと思う。こちら（おおい町）へ移ってからは、意志表明することにためらいが生まれた。原発企業と利害関係はないが、町全体が原発と共存していかなだめという雰囲気でも包まれている。福島事故のこと考えたら子どもや孫のためにも署名は協力します」など1人1人と丁寧に対話を重ねて約900戸（全世帯の約25%）を訪問し署名を収集したが、おおい町人口8500人（当時）に対して町民110筆分しか集まらなかった。その

後、おおい町長に対して県外分と合わせて全体で 1155 筆の署名を提出した。

原発を廃炉にして原発に代わる地域産業を誘致して基盤産業に育てる政策こそが将来の市・町の発展につながることを地道に説明し、運動の理解者になって、立地地元でも原発反対が多数派に増えるように世論と運動を高めて行く。そのことが喫緊の課題ではないかと強く思う。

以上